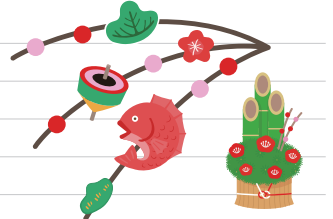


新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。高松協同病院の院長の任に就き、早4回目の新しい年を迎えることになりました。昨年の4月の診療報酬・介護報酬改定を受けて、当院及び関連事業所の医療活動・介護活動の方向性を明確にしていくことが求められ、あらためて地域医療構想の中で我々がどういう役割を果たすべきなのかを考えてきました。いつも連携させていただいている医療機関・介護事業所の方々にもご協力いただきながら、我々が地域住民の命と健康を守り増進していく使命をおっていただくことを再認識していく必要があると思います。毎年のごときはありますが、WHOが推進する健康増進拠点病院（HPH）として多職種で協働しながら地域住民全体のAOL及びQOLの向上を目指しヘルスプロモーション活動をますます発展させていく決意です。病気や身体障害、身体虚弱等があっても地域の中でいきいきと生活していくために、生活復帰、社会復帰を目指す地域でのリハビリテーションをさらに充実させていきます。

これからも引き続き入院患者にはもちろんのこと、外来リハ、訪問リハ、通所系サービス等あらゆる場面でリハビリテーションの理念を地域の中に浸透させていくというこの病院の役割を今後も十分に果たしていきます。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



院長 北原孝夫

あけましておめでとうございます。実はこの記事を書いているのは12月初旬です。大会長として1年前より企画、準備をしていました第8回日本リハビリテーション栄養学会学術研究会がサポートホール高松にて12月1日に大盛況のうち無事終了し、次の大会長に引き継ぎが出来てほっとしているところです。全国から800名以上の参加があり、リハビリテーションと栄養を他職種協働の視点で結びつけた「リハ栄養」の概念が、多くの医療従事者に支持され、回を重ねるごとに大きく発展していることを喜ばしく思っております。高松協同病院における取り組みは次ページからの特集でお届けしておりますのでごらん下さい。さて、昨年は診療報酬の改定がありました。基準の引き上げもありましたが、幸い当院においてはリハ栄養だけではなく、普段からのリハビリに対する取組みのおかげで回復期リハ病棟1・3をそれぞれ守ることができました。また、昨年の挨拶でも申し上げましたが、病院で働くスタッフの労働環境の改善にも精力的に取り組んでまいりました。今年も引き続き、地道に研究と実践を続けていき、地域の皆様に頼りにされる協同病院にして行きたいと思っておりますので、本年も宜しくお願いいたします。



副院長 植木昭彦

新年おめでとうございます。いよいよ新元号に変わる年が始まりました。皆様におかれましては、新たな抱負を持って新年をお迎えのことと存じます。日頃から高松協同病院の診療等において連携を深め、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は診療報酬介護報酬同時改定が行われ、データ提出や入院基本料の変更など様々な対応を迫られる慌ただしい1年となりました。「ずっとあなたの笑顔をつながたい～院内外で連携を強め、助け合い、暮らしを守る医療・介護の輪をつくらう!～」を2018年度の病院目標に掲げ、職員一同力を合わせ邁進しております。

看護介護職員も各部署で求められる役割を果たしつつ、患者様、利用者様、ご家族、地域の方と共に笑顔をつなげられるように明るく、元気に仕事に取り組んでまいります。

本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



総看護師長 福家妙子

歯科衛生士の取り組み

私たち歯科衛生士は2病棟に1名づつ配置され、まず、食べることができる口にする事を目指しています。例えば、経鼻経管栄養の方の口腔内に痰が付着していると、食べることができない、飲み込めない、話せない状態になりやすく、誤嚥性肺炎のリスクも高くなります。口腔ケアをする事で、口腔内、口腔周囲の粘膜や筋が動きやすくなり、唾液が出やすくなります。口腔リハビリとして、舌の筋力増強訓練や、口唇閉鎖訓練、スポンジブラシや吸引ブラシを使い頬粘膜をマッサージするなど口腔機能の回復をする事で、咀嚼、嚥下機能が向上し、自分の唾液を飲む事が出来るようになります。誤嚥をしても、口腔内が清潔に保たれていると肺炎のリスクは低くなります。また、脳疾患の麻痺により嚥下障害がある方も口腔ケア、口腔リハビリなど、多職種が連携をする事により、安全に経口摂取可能となります。口から食べる事で、全身の健康にもつながり、リハビリの効果もあがります。



リハ栄養学会発表内容



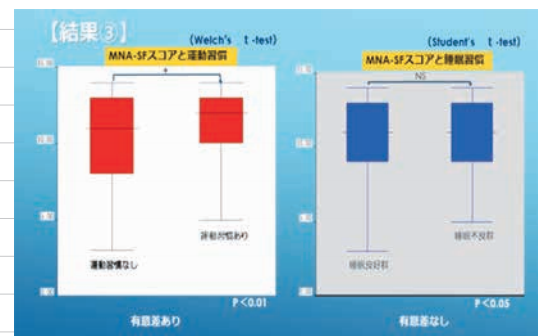
発表テーマは「要支援・要介護者の栄養状態と生活習慣の関係性」です。生活期リハを利用している65歳以上の利用者171名を対象にMNA-SF（簡易栄養状態評価表）を用いた低栄養と生活習慣（運動習慣・睡眠習慣）の関係性について統計学的処理を実施。

対象者の約6割は運動習慣がなく、睡眠習慣は不良群が同率の約6割であった。8人に1人は低栄養状態であり、低栄養のリスクあり群を含めると全体の約6割は何らかの栄養障害をもっていた。

NA-SFスコアと運動習慣の有無において有意差が認められたが、睡眠習慣においては認められなかった。

今回の発表では運動習慣と栄養状態には関係性があることがわかったが、低栄養状態の悪循環の起因となりうる機転の特定には至らなかった。

文献比較で、低栄養のリスクあり群の約半数に低栄養移行の可能性があること、在宅生活での低栄養リスクのより高まる75歳以上利用者への今後の生活期NSTとして食事と運動両面での早期介入の必要性を確認できた発表であった。



特集

高松協同病院におけるリハ栄養の取り組みについて!

2018年12月1日(土)、高松市サンポートで第8回日本リハビリテーション栄養学会の学会集会在開催されました。「多職種で未来をひらくリハ栄養」をテーマに、特別講演や教育講演、シンポジウム、職種別企画、一般講演が行われ、全国から815名の参加者を迎え、大盛況のうちに終了しました。当院の植木 昭彦副院長が大会長を務め、職員もスタッフとして事前準備や当日の運営に当たりました。当院からもポスター発表の参加を行いました。日頃より高松協同病院では、患者様のリハビリと栄養の視点で積極的に活動を行っていますので、この機会に紹介させていただきたいと思っております。



管理栄養士の取り組み

病棟では、定期的に患者様の栄養状態を評価し、その時の状態に合わせた食事の提供ができるように努めています。もともと持っている疾患、食欲や便通などの消化器症状、飲み込みや咀嚼（そしゃく）などの状態、活動の程度など医師の指示の基に看護師や言語聴覚士、理学療法士、歯科衛生士と話し合いながら食事の種類や形態、食量などを決めていきます。病前での食事に関する聞き取りや、嗜好などの情報収集も大切です。食事の姿勢や自助具の選定など作業療法士の介入で、安全に食事できるように気を付けます。毎週1回多職種で集まって、特に介入が必要な患者様の食事について話し合います。入院中は「リハビリの効果を食事で支える」がモットーです。

食事は患者様にとって体づくりであると同時に楽しみの一つでもあることから、少しでも満足していただけるように委託側の管理栄養士と連携を取りながら食事の提供をしています。必要な方には栄養補助食品の選定や紹介も行い、栄養状態の改善に役立てていただいています。また退院後の生活に合わせた食事の提案、再発予防や低栄養の予防などの栄養相談を必要に応じて行っています。



言語聴覚士の取り組み

当院では、患者様の入院時に多職種での機能評価を行います。言語聴覚士はコミュニケーション面、嚥下機能面に関して、実際の食事場面に介入します。その際、患者様が安全に、そしてご自身の能力に合った食事動作を行えるよう設定を行います。また、管理栄養士さんが算出した必要栄養量やたんぱく質などの栄養面を考慮し、患者様の摂取量や運動能力と合わせて提供する食事を調整するようにしています。入院後、患者様の身体能力の改善や運動量の増加に合わせて食事量を変えていくことも必要です。また、嚥下機能面の改善とともに食事形態を変更する際にも、必要エネルギー量を満たすように注意しています。

身体機能やADLの改善、退院後の生活にも影響する栄養面のフォローには様々な職種との情報共有、チームでの検討が必要です。患者様の状態を理解し、入院中のリハビリテーションがより有効にすすめられるよう、言語聴覚士の視点からアプローチしていきたいと考えています。



連携相談部

2019年を迎えました。私たち連携相談部では6名の医療ソーシャル・ワーカーと1名の看護師が主に入院相談や外来患者相談、入院患者様に対するケースワーク、受診手配などの地域連携業務等を行っています。病院には様々な方々がおられます。私たちは日々「笑顔をたやさず」をモットーに不安や心配事を持った患者様やそのご家族に寄り添いそれぞれに適した医療・福祉サービスの紹介や必要な援助につなげられるよう日々取り組んでいます。暮らしのことや療養のことなど何かお悩みや困りごとなどありましたらお気軽にお声をかけてください。「一人で悩まず、まず相談」場所は西病棟2階南奥です。



医事課

医事課長の森中です。医事課は受付や電話での対応や診療費の計算、保険請求などが主な業務になり、いろいろなデータが集まってきます。このデータは病院の収益に大きく関わってくるため、今まで以上に意識して活用していかなければならない立場になったと思っています。データ分析することで、課題の抽出のために必要な情報を発信していくことが役割と考えています。それ以外にも、日頃から医療情報を得ておくことはもちろんのこと、他部署と連携して運営の改善を提案したり、いろいろな視点から物事を考えて問題を解決したりしていくことも必要です。今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。



薬局

あけましておめでとうございます。薬局主任の米田と申します。2017年7月より主任に就任し、日々の薬剤業務に奮闘しています。さて、近年では国の医療費が増大し続けており、医療費削減の波が広がりつつあります。当院でも皆様へお渡しするお薬がジェネリック医薬品へと変更するなど、我々の身近なところにも影響してきていますが、その中でも皆様に安心してお薬を飲んでいただけるよう、我々薬剤師が信頼できるお薬を揃え、お薬の説明をしっかりと行うことが重要と考えております。また、地域の皆様の頼れる薬の相談窓口として、情報提供だけでなく様々な病気の悩みなどにも親身になってアドバイスしてまいりますので、いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。本年もよろしくお願いたします。

